

# 日本一の都市山 六甲山の物語

旗振支部 瀬川 滋

## ●はじめに

昨年キリマンジャロに登頂し山の話をよく講演するが、最近「郷土史」にも凝っており、その一環で六甲山の歴史を纏めた。元々はパワーポイントによるものであるが、今般それを文章化した。写真・図が少なく意が通じるかどうか気懸りだが、雰囲気は伝わらと思うので以下記述する。

## ●六甲山は日本一の都市山

- ・六甲山(広義)：六甲山地,神戸背山の山塊  
(狭義)：標高 931m の六甲山地の主峰
- ・「都市山」の定義：100 万人クラスの人口の都市の背後にある標高千m級の屏風のように聳える山

## ●六甲山地の成り立ち

断層運動で現大阪湾一帯が沈んで大きな「大阪湖」が出来,その後も東西方向の強い力による断層運動が続き,平坦地が盛り上がった(六甲変動)。

更に大陸や海底のプレートの動きで断層運動が続き,沈んでいた「大阪湖」が海と繋がって大阪湾となり,陸地は東北から南西に向かって高く盛り上がり,そこが六甲山地となった。

従って六甲山地は断層の巣となっている。

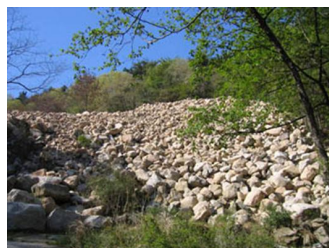
## ●六甲山にロッカージェンがあるのは？

大部分が花崗岩で出来ている(六甲花崗岩)。元々花崗岩は硬い岩だが,地表で雨風に晒されると風化で崩れ易い。

現在の六甲山地はかなり風化が進んでおり,ロッカージェンや蓬莱峡,白水峡,須磨アルプスの奇景は隆起した花崗岩が長期の間に雨風で弱い部分が崩れ,硬い部分が残って造られたものである。

武庫・菟原・有馬の境界にある三国岩や烏帽子岩,雲ヶ岩,天狗岩,六甲比命神社の磐座等々六甲山系には巨岩が多く,古代巨石信仰を生んでいる。

登山道の石切道は頂上付近で切り出した花崗岩を石材(通称・御影石)として牛車等で運び出した道で,名残として



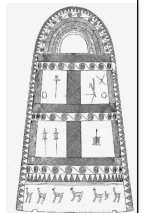
切り出された石が山積みされた所が残っている。

## ●豊富な植生を持つ六甲山

山陽,中国山地,北方,紀伊山地,南紀,海浜系の6系の植生があり,これだけ植生がある地は珍しい。

## ●麓の山に弥生人のお宝が

桜ヶ丘遺跡から銅鐸 14 個と銅戈 7 本が出土しており,14 個も出土するのは日本でも珍しい。



## ●昔は六甲山という名では無かった

六甲山地帯は古くから畿内(大阪)から見て「むこう」にあることから「むこ」の名称が付いた。

秀吉の徳政令に「武庫山一名六甲山」とあるが,「むこ」に「武庫」の字,その後「六甲」の字が当てられ,今日のように「ろっこう」と呼ぶようになった。

## ●修験者が闊歩していた

役の行者が日本行者の七修行場の一つとして六甲修験道を開発した。

里人は岩上の修行僧を見て天狗と考えたので天狗岩・天狗道・天狗塚等天狗の付く地名が多い。

## ●清盛の愛した天王温泉,秀吉の愛した有馬温泉ともう1つ明治時代に繁昌した諏訪山温泉



## ●六甲山の岩が大阪城の石垣に

石垣に利用された石の石切場跡が多く残っており,そこで直方形の割石が造られて山から海岸迄運ばれ,船で大坂城迄運ばれた。

## ●六甲越の古道

・烏原越,鶴越,天王谷越(有馬街道),再度越(大師道),白川道,多井畑道,魚屋道(有馬道),唐櫃道

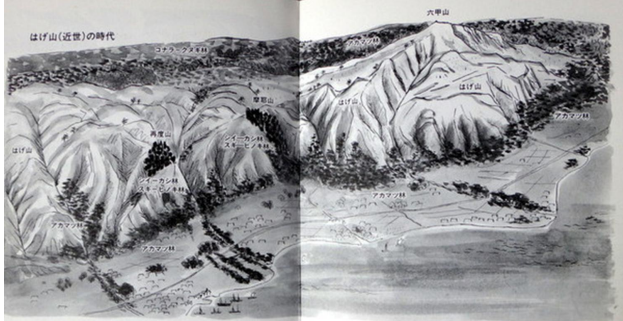
## ●つわもの共が夢の跡の摩耶山城



## ●六甲の入会権争議

消失前の摩耶山天上寺

- ・ 芦屋背山,中一里山,多井畑入会山,唐櫃六甲山等
- 開港時の六甲山は木が無い裸山
- ・ 1902 (明治 35)年から緑を取り戻す工事開始
- ・ 緑の復旧は山の斜面を階段状に切り,芝を張付け,苗木を植栽(「積苗工」という六甲独特の方法)



明治初期の六甲連山の植栽状況図

### ●大雨に弱い六甲の川

普段はおとなしい川だが大雨時は暴れ川になり流域を変えた。玉石地帯がその痕跡である。住吉宮町遺跡からは玉石の下に古墳群が発見された。

洪水対策のため、江戸以前に湊川は古湊川から旧湊川に,明治になって生田川は居留地を守るため旧生田川から新生田川に付替られ,湊川は兵庫・神戸間の物流促進のため新湊川へ再付替された(この時掘った湊川隧道は日本初の河川トンネル)。



洪水の玉石の下から姿を現した古墳

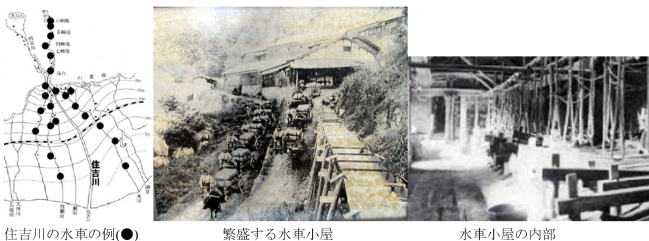
### ●川の下を鉄道が走る天井川

流域固定化のために堤防構築→豪雨になると川底に土砂が埋まる→溢れては困るので堤防を嵩上げする→この繰り返しで川は天井川化した。石屋川,住吉川等は川の下に鉄道トンネルが作られた。

### ●山麓には沢山の水車があり,生産性向上に寄与

都賀川,住吉川,生田川,湊川等々の上流に急流を利用した水車小屋が沢山あった。

米の精米,菜種を絞っての菜種油製造,小麦粉製



住吉川の水車の例(●)

繁盛する水車小屋

水車小屋の内部

造を行っており,灘酒の大量生産には大貢献した。灘日素麺も沢山製造され神戸名物になっていた。

### ●宮水の秘密

六甲に降った雨が伏流して花崗岩の地層を通過することで酵母の栄養となるリンやカリウムを豊富に取込むだけでなく,湧出地点に多くの酸素が含まれ,それが酒の風味を損なう鉄分だけを消すという奇跡の現象を起こして酒を美味しくしており,近頃の水車による大量精米が大量生産を実現した。

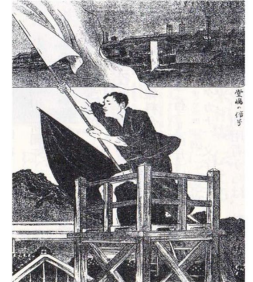
### ●赤道を越えても腐らない「ロウウォーター」

- ・ 神戸の水はリンやカリウムを豊富に含んで美味しい。
- ・ 明治 33 年に布引貯水池の完成で,水道が開設(現在は 3/4 が淀川の水)

- ・ 赤道を越えても腐らないと今でも船舶用に供給

### ●山麓を相場情報が走った旗振通信

江戸中期,経済の根幹たる大坂の米相場情報を一早く伝達するために考案され,大阪から岡山迄 15 分,広島迄 27 分で通信出来た。



### ●明治期の六甲登山道

- ・ 石切道,魚屋道,住吉道(有馬道), 旗振山の旗振り

アイズロード,シュラインロード(唐櫃道),カスケートバレー(杣谷道)

### ●鉄道開通後の有馬温泉への六甲越

- ・ 住吉駅から住吉道→魚屋道経由(12km)は駕籠で

- ・ 神戸駅からは有馬街道

経由(24km)は人力車で



### ●外国人が開発・活用した六甲山

六甲山の娯楽の場としての開発は貿易商の英人 A.H.グールドが行い,明治 43 年には外国人山荘 44 戸,日本人山荘 12 戸と外国人が圧倒的だった。また六甲の砂防・緑化は蘭人デ・レーケが,布引貯水池開発は英人 H.S.パーマー他 1 人が行った。

このため六甲山の地名・道名にカタカナが多い。

### ●日本の近代登山発祥の地

六甲山はピッケル,ザイル等を使う日本の近代登山発祥の地(1874 年)で,アーネスト・サウ(「日本アルプス」命名者)

達3人の外国人パーティが日本初の登山をした。

### ●日本最古のゴルフ場

1903年グループにより六甲山上に神戸ゴルフ倶楽部(日本最古)が造られゴルフが盛んになった。その当時の山上への交通手段は特製の駕籠や馬だった。お駕籠に乗ってゴルフ



### ●その他の山のスポーツ

- ・スケート、スキー、全山縦走(塩屋・宝塚 56km)、毎日登山

### ●山麓の楽天地・二楽荘

西本願寺22世・大谷光瑞が六甲山麓の打越(岡本)山に建設した別邸で、本館1階に英国室、支那室、アラビア室等、2階にインド室、エジプト室等があった。



二楽荘全景

### ●山中に眠る弾丸列車構想

東京・下関を9時間で結ぶ(大東亜縦貫鉄道の一環)で1939(昭和14)年策定され、神戸は六甲山を

潜る日本一の大トンネル、駅は地下で通過する計画だった。

### ●今は昔の阪神と阪急の開発競争

阪神が1927年に六甲山上を旧唐櫃村から買収した後、1932年に六甲ケーブルを開通させ以後次々と開発したが、阪急が1931~1944年にロープウェイと六甲山ホテルで殴り込みをかけ競い合った。

### ●頂上は2か所あった

戦時中最高峰周辺は陸軍の高射砲陣地、戦後は米軍通信基地で一般人の立入禁止だった。このため南の小高い丘を仮の六甲山最高峰に指定。1992年に米軍から返還されて以降標高931mの一等三角点がある本当の最高峰が立入可になった。

### ●近代化産業遺産建物

- ・六甲ケーブル山上駅、神戸ゴルフ倶楽部クラブハウス、六甲山ホテル旧館、ガールズ六甲山荘

### ●六甲山地の日本初づくり

- ・高山植物園、人工スキー場、天然アイススケート場、重力式コンクリートダム、スリット型砂防堰堤、簡易天幕生活キャンプ、触れるミュージアム

